

清水谷特別緑地保全地区保全管理計画計画（本編）新旧対照表

最終案	R 4 第 3 回みどり審議会案
<p>目次</p> <p>&lt;本編 目次&gt;</p> <p>改定にあたって</p> <p><u>第 1 章 清水谷特別緑地保全地区保全管理計画の改定について</u></p> <p><u>1. 清水谷の概要・・・・・・・・・・ 2</u></p> <p><u>2. 保全管理計画改定の必要性について・・・ 2</u></p> <p>（略）</p> <p><u>第 2 章 清水谷特別緑地保全地区について</u></p> <p>（略）</p> <p><u>第 3 章 将来へ多様な自然環境を引き継ぐために</u></p> <p>（略）</p> <p><u>第 4 章 今後の保全に向けて</u></p> <p>改定にあたって</p> <p>（前略）</p> <p>本計画は、おおむね5年ごとに実施される「自然環境評価調査」の結果を参考として見直すこととしています。<u>第3回目の自然環境評価調査（平成27年度から平成29年度まで実施）は本計画策定直後に実施されたため見直しは行っていませんが、その結果では、樹林指標種の増加率が他の環境区分に比して大きく、第 1 回目の調査時に比べて保全管理作業の効果が表れている可能性が示唆されました。</u></p> <p><u>しかし、近年谷戸内では、個々の樹木の大径化に加え、落葉広葉樹主体の明るい雑木林から常緑広葉樹主体の暗い林へと植生の自然遷移が進行してきており、それに伴い谷戸全体の環境に顕著な変化が表れ始めました。この原因として、市が取り組むこととしてきた、谷戸内の危険を伴う伐採</u></p>	<p>目次</p> <p>&lt;本編 目次&gt;</p> <p>改定にあたって</p> <p><u>第 1 章 清水谷特別緑地保全地区について</u></p> <p>（なし）</p> <p>（なし）</p> <p>（略）</p> <p><u>第 2 章 将来へ多様な自然環境を引き継ぐために</u></p> <p>（略）</p> <p><u>第 3 章 今後の保全に向けて</u></p> <p>（略）</p> <p>改定にあたって</p> <p>（前略）</p> <p>本計画は、おおむね5年ごとに実施される「自然環境評価調査」の結果を参考として見直すことを<u>予定しており、第3回目の自然環境評価調査（平成27年度から平成29年度まで実施）の結果において、保全管理作業の効果が表れている一方、樹林指標種の増加率が他の環境区分に比して大きく、第 1 回目の調査時に比べて樹林化が進行している可能性が示唆されました。この原因については、市が取り組むこととしてきた、谷戸内の危険を伴う伐採や整備等の進捗が、必要とされる植生管理のスピードに追い付いていなかったことも一因として考えられます。</u></p> <p><u>このような状況の中、近年谷戸内では、個々の樹木の大径化に加え、落葉広葉樹主体の明るい雑木林から常緑広葉樹主体の暗い林へと植生の自然遷移が進行してきており、それに伴い谷戸全体の環境に顕著な変化が表れ始め、保全の方向性を見直</u></p>

<p><u>や整備等の進捗が、必要とされる植生管理のスピードに追い付いていなかったことも一因として考えられます。こうして保全の方向性を見直す必要が生じてきたこと及び清水谷の保全継続に向け、近隣住民の生活環境への配慮の必要性が生じてきたことから、第4回自然環境評価調査の結果を待たず、この度、本計画を改定することといたしました。</u></p>	<p><u>す必要が生じてきたことから、この度、本計画を改訂することといたしました。</u></p>
<p><u>第1章 清水谷特別緑地保全地区保全管理計画の改定について</u> (内容を新たに記載し、1章とした。)</p>	<p>(なし)</p>
<p>第2章 清水谷特別緑地保全地区について (1.位置 略) 2. 指定理由および<u>本市計画</u>における位置づけ (以下略) (図中) 茅ヶ崎市環境基本計画 (前略) 柳谷や行谷、<u>清水谷</u>、長谷、赤羽根十三図、平太夫新田、柳島を (以下略)  (3. 清水谷の特徴 略)</p>	<p>第1章 清水谷特別緑地保全地区について (1.位置 略) 2. 指定理由および<u>本市</u>における位置づけ (以下略) (図中) 茅ヶ崎市環境基本計画 (前略) 柳谷や行谷、長谷、赤羽根十三図、平太夫新田、柳島を (以下略)  (3. 清水谷の特徴 略)</p>
<p>第3章 将来へ多様な自然環境を引き継ぐために (1. 対象区域 略) 2. 保全管理の基本方針 (中略) ① 市は、清水谷を特別緑地保全地区として、<u>(削除) 都市緑地法及びこれに関連する法令を運用しつつ、この保全管理計画に基づいた保全管理に取り組みます。</u> ② <u>市民活動団体等</u>は、市と協働により、この保全管理計画に基づいた保全活動を実施します。 (中略)</p>	<p>第2章 将来へ多様な自然環境を引き継ぐために (1. 対象区域 略) 2. 保全管理の基本方針 (中略) ① 市は、清水谷を特別緑地保全地区として<u>都市計画決定したものとして、都市緑地法及びこれに関連する法令を運用しつつ、この保全管理計画に基づいて、保全管理に努めます。</u> ② <u>市民活動団体</u>は、市と協働により、この保全管理計画に基づいて、保全活動を実施します。 (中略)</p>

<p>④ <u>土地所有者及び近隣住民</u>は、市及び市民活動団体等が対象区域内で行う保全活動について理解を示すとともに、土地の利用については、自然環境に配慮するものとします。</p> <p>⑤ <u>土地所有者</u>及び近隣住民は、市及び市民活動団体等が対象区域内で行う保全活動について理解を示すとともに、その活動に協力します。</p> <p>(中略)</p> <p>⑦ 保全管理活動<u>においては</u>、「清水谷保全活動カルテ（ゾーンカルテ）を活用し、（以下略）</p>	<p>④ <u>土地所有者</u>は、市及び市民活動団体が対象区域内で行う保全活動について理解を示すとともに、土地の利用については、自然環境に配慮するものとします。</p> <p>⑤ <u>市民</u>及び近隣住民は、市及び市民活動団体が対象区域内で行う保全活動について理解を示すとともに、その活動に協力します。</p> <p>(中略)</p> <p>⑦ 保全管理活動は、「清水谷保全活動カルテ（ゾーンカルテ）を活用し、（以下略）</p>
<p>3. 特別緑地保全地区内の保全に関する事項</p> <p>( (1) 略)</p> <p>(2) 土地の買い入れ及び買い入れた土地の管理に関する事項</p> <p>都市緑地法第17条に基づく土地の買入れは、市が行います。その際は、茅ヶ崎市森林環境譲与税基金を<u>主に活用</u>します。</p> <p>(以下 (3) ～ (4) 略)</p>	<p>3. 特別緑地保全地区内の保全に関する事項</p> <p>( (1) 略)</p> <p>(2) 土地の買い入れ及び買い入れた土地の管理に関する事項</p> <p>都市緑地法第17条に基づく土地の買入れは、市が行います。その際は、茅ヶ崎市森林環境譲与税基金を<u>活用</u>します。</p> <p>(以下 (3) ～ (4) 略)</p>
<p>4. 来訪者のルール</p> <p>対象区域では、散策のルールを次のとおりとします。市は、<u>近隣住民</u>を（以下略）</p>	<p>4. 来訪者のルール</p> <p>対象区域では、散策のルールを次のとおりとします。市は、<u>地域住民</u>を（以下略）</p>
<p>5. 保全管理計画の進め方</p> <p>(前略) 特段の時期を定めず、自然環境評価<u>(削除)</u>調査や（中略）</p> <p>保全管理計画を見直すときには、必要に応じて、市民活動団体や茅ヶ崎市みどり審議会、<u>茅ヶ崎市環境審議会、学識経験者などへ情報を共有し、助言などを</u>いただきます。</p> <p>また、保全の方向性に沿って保全活動が行われるように、市及び<u>市民活動団体等</u>の相互理解のもと、市が「保全活動カルテ（ゾーンカルテ）」を作成し、両者が行った保全活動を記録します。</p> <p>(以下略)</p>	<p>5. 保全管理計画の進め方</p> <p>(前略) 特段の時期を定めず、自然環境評価<u>再</u>調査や（中略）</p> <p>保全管理計画を見直すときには、必要に応じて、市民活動団体や茅ヶ崎市みどり審議会、<u>学識経験者などから助言を</u>いただきます。</p> <p>また、保全の方向性に沿って保全活動が行われるように、市及び<u>市民活動団体</u>の相互理解のもと、市が「保全活動カルテ（ゾーンカルテ）」を作成し、両者が行った保全活動を記録します。</p> <p>(以下略)</p>

<p>【<u>図 1 保安全管理計画の進め方</u>】 (図内)</p> <p>③ 活動の検討 カルテを参考に、活動の効果を<u>検討</u>します。</p> <p>④ 活動の見直し <u>検討</u>結果を基に、必要な変更を加えます。</p> <p>【<u>図 2 保全活動カルテ（ゾーンカルテ）の記載例</u>】 (実際に保全活動団体と市が使用している様式に差し替え)</p> <p>6. 役割分担 対象区域の自然的環境を保全していくためには、市と、市民、<u>市民活動団体等</u>及び土地所有者、近隣住民など多様な主体の<u>連携・協力</u>が必要です。特に、実際の保全活動は、市だけで行うことは難しく市民活動団体等をはじめとした市民の<u>連携・協力</u>が必要であるため、次のとおり役割を分担し、<u>保全活動等</u>を行います。なお、<u>市民活動団体等</u>は、その団体の実情に応じて、可能な範囲で保全活動を行います。</p> <p>【<u>図 3 役割分担と協力体制</u>】 (図内双方向矢印内) <u>(削除)</u></p> <p>第<u>4</u>章 今後の保全に向けて</p> <p>1. 環境別の目標 (中略)</p> <p>【<u>図 1 保全のイメージ（谷戸の入り口付近）</u>】 【<u>図 2 保全のイメージ（中央部）</u>】 落葉広葉樹を主体とした<u>樹林</u></p> <p>【<u>図 3 保全のイメージ（谷戸の源流付近）</u>】 落葉広葉樹を主体とした<u>樹林</u></p> <p>2. 対象区域のゾーン区分</p>	<p>【<u>図 1 保安全管理計画の進め方</u>】 (図内)</p> <p>③ 活動の検討 カルテを参考に、活動の効果を<u>検証</u>します。</p> <p>④ 活動の見直し <u>検証</u>結果を基に、必要な変更を加えます。 <u>カルテ例</u></p> <p>6. 役割分担 対象区域の自然的環境を保全していくためには、市と、市民、<u>市民活動団体</u>及び土地所有者、近隣住民など多様な主体の<u>連携</u>が必要です。特に、実際の保全活動は、市だけで行うことは難しく市民活動団体をはじめとした市民の<u>協力</u>が必要であるため、次のとおり役割を分担し、<u>保全活動</u>を行います。なお、<u>市民活動団体</u>は、その団体の実情に応じて、可能な範囲で保全活動を行います。</p> <p>【<u>図 2 市と市民団体の役割分担</u>】 (図内双方向矢印内) <u>協力</u></p> <p>第<u>3</u>章 今後の保全に向けて</p> <p>1. 環境別の目標 (中略)</p> <p>【<u>保全のイメージ図 1（谷戸の入り口付近）</u>】 【<u>保全のイメージ図 2（中央部）</u>】 落葉広葉樹を主体とした<u>広葉樹林</u></p> <p>【<u>保全のイメージ図 3（谷戸の源流付近）</u>】 落葉広葉樹を主体とした<u>広葉樹林</u></p> <p>2. 対象区域のゾーン区分</p>
--	---

<p>市と市民活動団体が保全活動を行う際、作業場所を特定し、<u>円滑に作業を行うことができるよう</u>（以下略）</p> <p>3. 各ゾーンにおける現状と課題及び保全の方向性（中略）</p> <p>【表1 各ゾーンにおける現状と課題及び保全の方向性】</p> <p>i. ゾーンO（源流部） 現状と課題</p> <p>①（前略）※過去に<u>盛土</u>されています（中略）</p> <p>iv. ゾーンL－3（谷戸入口から源流部に向かって右側の斜面） 保全の方向性</p> <p>③（前略）倒木は段階的に除去し、林縁にある樹木は、<u>生育の悪い樹木や隣接地への越境木を伐採・剪定し、風よけの役割がある落葉広葉樹を残します。</u>（中略）</p> <p>xi. ゾーンB－2（池とその上流部） 現状と課題</p> <p>①（前略）過去に<u>盛土</u>されています。（中略）</p> <p>xii. ゾーンB－3（池から谷戸入口に向かって草場が続くエリア）</p> <p>①（前略）過去に<u>盛土</u>されています。 ②（前略）過去に<u>盛土</u>されています。</p>	<p>市と市民活動団体が保全活動を行う際、作業場所を特定し、<u>作業が円滑に行うことができるよう</u>（以下略）</p> <p>3. 各ゾーンにおける現状と課題及び保全の方向性（中略）</p> <p>【図4 各ゾーンにおける現状と課題及び保全の方向性】</p> <p>i. ゾーンO（源流部） 現状と課題</p> <p>①（前略）※過去に<u>盛り土</u>されています（中略）</p> <p>iv. ゾーンL－3（谷戸入口から源流部に向かって右側の斜面） 保全の方向性</p> <p>③（前略）倒木は段階的に除去し、林縁にある樹木は風よけの役割があるので残します。（中略）</p> <p>xi. ゾーンB－2（池とその上流部） 現状と課題</p> <p>②（前略）過去に<u>盛り土</u>されています。（中略）</p> <p>xii. ゾーンB－3（池から谷戸入口に向かって草場が続くエリア）</p> <p>①（前略）過去に<u>盛り土</u>されています。 ②（前略）過去に<u>盛り土</u>されています。</p>
---	---